

雑木林通信

2020. 12. 17 157号

境川のバードウォッチング

北国から大雪の報があって、寒波の到来、冬本番となりました。そして、衰えることのないコロナ感染に不安な日々を送っている私たちです。冬休みをひかえ、もしかしたら境川散歩の機会ができるかもしれないと考え、境川バードウォッチングの話題としました。

境川は、多摩丘陵と相模台地からの流水を集め、江の島まで流れています。開発後も残された丘陵の樹林には、多種の野鳥が生きており、渡りの休息地としても利用しています。



境川冬 早朝の川霧 寿橋より

その野鳥たちが一年を通して境川の水を求めて飛来します。以前、熱心に野鳥の写真を撮っている方が「…境川は野鳥の穴場なんですよ、30種は来るんじゃないかな」と話してくれました。

…野鳥が多くみられる川、境川なのです。

「鳥待ち」の言葉があるように、鳥は飛来するのを待つものなのかもしれませんが、ふと川原を見ると、長い尾のセキレイを見つかることがあります。セキレイは、石の上で尾羽をぴょんぴょんと上下に動かすことが多いので「石たたき」とも呼ばれます。



キセキレイ（セキレイの一種）

また路上や駐車場などでも見かけ、コンクリートの上をチョコチョコとせわしく歩いてきて、何を思っただけか立ち止まるとは、あたりを見回すさまが、愛らしくユーモラスです。

境川の野鳥の中で一番大きいのが、アオサギ。首がながくツルに似ていて、背羽にわずかに青色を帯びた灰色が特徴です。獲物を探し



アオサギ (片所谷戸の池)

一足一足ゆっくりと川中を歩きます。やがて獲物の気配を察知すると動きを止め、見定めわずかな振動も起こすまいと静止します。やがて、この時とばかりに、獲物を捕らえる瞬間の動きははっとするほど素早く見事です。

静から動への瞬時の変わり身の早さを見せてくれる鳥です。

境川の人気の野鳥といえば、金属色のコバルトブルーの背羽を持ち「飛ぶ宝石」や「溪谷の宝石」と呼ばれるカワセミでしょうか。

カワセミは、巣穴から飛び立つと川に沿って高さ1mくらいのところを飛んで行き、2~30m飛んでは決まったとまり木で休みます。巣穴から決まった地点までの往復飛行を日に数回行いトイシ場も決めている几帳面な鳥なのです。



カワセミ (赤い足、黒いくちばし)

見なれた鳥でも、その鳥の個性がわかってくると愛着が増していくと思います。今回、わずかな紹介しかできませんが、境川バードウォッチングに役立てば幸いです。